実施	平成27年度

事務事業事後評価表

≪基本情報≫

事務事業の名称【1】	環境美化推進事業	所管課【2】	環境整備課
		評価者(担当者)	前田　弘信
総合計画での位置付け【3】	基本目標(章)	②人と自然にやさしい環境のまちづくり	重点施策【4】
	主要施策(節)	(1)自然環境の保全	□該当
	施策区分	(4)「環境の先進地、環境立都玉名」の推進	
	(市民意識調査結果)	☑【A】重点改善領域　□【B】重点維持領域　□【C】観察領域　□【D】維持領域	
実施の根拠(複数回答可)【5】	□市長公約　□新市建設計画【　年度予定　:　金額　千円】 ☑法令、県・市条例等【　玉名市環境美化に関する条例　】 ☑その他の計画【　玉名市環境行動指針　】　□該当なし		
事業区分【6】	☑ソフト事業　□義務的事業　□建設・整備事業　□施設の維持管理事業 □内部管理事務　☑計画等の策定事務		
会計区分【7】	☑一般会計　□特別・企業会計【　】	款 4	項 1　目 4　細目 1

≪事務事業の目的≫

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか)【8】	市民のごみや環境に対する意識が高まってきてはいるものの、まだ、ごみの投げ捨て等が後を絶たないなど、生活環境への意識や行動に改善の余地がある。
対象(誰、何に対して)【9】	市民、事業者、所有者等
意図(どのような状態にしたいのか)【10】	清掃活動等を行い市民の環境に対する意識啓発と地域の環境美化に努める。

≪事務事業の概要≫

事業期間【11】	□単年度のみ【　年度】　☑単年度繰返し【H17　年度から】　□期間限定複数年度【　年度～　年度まで】	
事業主体【12】	□国　□県　☑市　□民間　□その他【　】	
実施方法【13】	□直営　□全部委託　□一部委託　☑補助金等交付　□その他【　】	
事務事業の具体的内容【14】	・菊池川・裏川及び繁根木川の清掃作業を定期的に行っている団体に対し補助金を交付する。 ・年1回環境美化行動・クリーン作戦を開催し、参加地区の集めたごみの回収運搬を無料で行う。 ・NPO法人明るい社会づくり玉名が主催するアトリエ絵画展事業に補助金を交付する。	⇒ 事務事業を構成する細事業【15】 ① 河川清掃業務補助事業 ② 環境美化行動・クリーン作戦事業 ③ 「アトリエ絵画展」補助事業 ④ ⑤

≪事務事業実施に係るコスト≫

				H24年度決算	H25年度決算	H26年度決算	H27年度予算	全体計画
投入コスト	事業費(千円)	国庫支出金	100 %	3,488	3,107			
		県支出金	%					
		起債	%					
		受益者負担						
		その他						
		一般財源		100	428	400	402	
		【16】小計		3,588	3,535	400	402	0
		[再掲]臨時・非常勤職員人件費(千円)		0	0	0	0	
	職員の人件費	職員人工数		0.45	0.40	0.40	0.40	
		職員の年間平均給与額(千円)		5,610	5,424	5,424	5,424	
		【17】小計		2,525	2,170	2,170	2,170	
合計				6,113	5,705	2,570	2,572	

≪事務事業の手段と活動指標≫【18】

事務事業を構成する細事業		手段（細事業の具体的内容）	活動指標	単位	H24実績	H25実績	H26実績	H27計画
①	河川清掃業務補助事業	河川清掃活動を行う団体に補助金を交付する。	団体活動回数	回	20	20	20	20
②	環境美化行動・クリーン作戦事業	市民や関係団体に参加を呼びかけ清掃作業を行う。	参加区数	区	100	106	101	101
③	「アトリエ絵画展」補助事業	アトリエ絵画展の主催団体に補助金を交付する。	絵画展開催回数	回		1	1	1
④								
⑤								

≪事務事業の成果≫【19】

	成果指標（意図の数値化）	計算方法又は説明	単位	H24目標 H24実績	H25目標 H25実績	H26目標 H26実績	H27目標
1	清掃活動参加人数	環境美化行動・クリーン作戦への参加人数	人	4,311 5,436	5,436 5,461	5,461 5,164	5,164
2	清掃活動ごみ回収量	環境美化行動・クリーン作戦で回収したごみの量	t	3.98 6.71	6.71 6.71	6.71 14.7	14.7

≪事務事業の評価≫

評価項目		評価の視点	評価	評価の説明
妥当性〈判定〉A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	☐ 問題あり ☑ 問題なし	事業を続けることにより、市民の環境に対する意識が高まっているところでもあり、廃止や休止した場合、環境美化への意識が薄れるとともに、市内の環境も損なわれる可能性がある。
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、市民ニーズの低下により役割が薄れていないか。	☐ 問題あり ☑ 問題なし	
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。	☑ 影響あり ☐ 影響なし	
有効性〈判定〉A	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。	☑ 達成 ☐ 未達成	
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。	☐ 余地あり ☑ 余地なし	
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。	☑ 十分 ☐ 不十分	
効率性〈判定〉A	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	☐ 余地あり ☑ 余地なし	
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。	☐ 余地あり ☑ 余地なし	
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。	☐ 余地あり ☑ 余地なし	
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。	☐ 余地あり ☑ 余地なし	
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	☐ 余地あり ☑ 余地なし	

≪今後の方向性と改善≫

今後の方向性【31】	☐ 拡充して継続　☑ 現状のまま継続　☐ 縮小を検討　☐ 休止・廃止を検討 ☐ 細事業の効率化【 ☐ 改善・見直し　☐ 民間活用　☐ 他事業と統合　☐ 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	クリーン作戦や河川清掃団体の活動も経常化しており、今後も引き続き環境美化活動を根気よく続けていくことにより、市民の美化意識の向上に繋げたい。
昨年からの見直し・改善状況【32】	特になし

■評価責任者記入欄■

		評価責任者
評価責任者（課長）の所見【33】	河川清掃活動団体への補助、環境美化行動（クリーン作戦）については、地域の環境美化と住民の環境に対する意識向上に繋がることから今後も継続する。	西川　正美